

◆◆頭痛と自然との調和◆◆

頭痛薬と言えば、大抵の方は大衆薬の○キソニンや○ファリンなどをイメージされる場合が多いと

思いますが、実は頭痛は漢方の得意分野です。

そう言うと、漢方は「すぐ効くか？」という反応が返ってくると思います。たしかにすぐ効く場合と効かない場合があります。しかし、高齢者で大衆薬の鎮痛剤が「クセになっている」方を見るにつけ、すぐ効くもので急場しのぎを続けて治らなくなる前に、体質や原因に応じた治療と養生をしていただきたいと思います。

「因人制宜」とか「因時制宜」という言葉があります。同じクスリでもヒトや使う時によって制限される場合と奨励される場合があるという意味です。漢方では体質と原因や痛む箇所によって使う処方や薬草を使い分けています。

秋はなぜか、頭痛に使う主だった薬草が出そろおうと言ってもよいくらいです。そのいくつかを見ていきましょう。

1) センキュウ (センキュウの根) : 秋に開花するセリ科薬草で、漢方の頭痛薬にはたいてい入っている要薬です。

中国の新しい心臓病薬「冠心二号方」の効果を、初めに日本で追試した研究者の方たちは、初めは自分たちの血を提供し、まずセンキュウで血栓の溶解作用をテストしたところ、その効果に驚き、その後の冠元顆粒の開発につながって行きました。

昔、筆者が北京の病院で研修中に捻挫し、検査とハリ治療の後、処方された外用薬も、センキュウのチンキでした。

センキュウには血をサラサラにしてうっ血を散らす働きと、気の巡りを良くして痛みを止める効果があるので、血行不良の痛みに広く使われています。

2) マンケイシ (ハマゴウの実) : 秋、浜辺に行くと、強い浜風に耐えて、這いつくばるようにハマゴウが根茎を伸ばし、花後に目玉のような実をつけています。目の奥の痛みに使われるほか、カゼの後や冷たい風にあたった後に出やすい頭部の神経痛の漢方薬にも配合されます。風に強い本種を去風薬として頭目の痛みに使うのは漢方独特の天人合一的発想ですが、有効なのは不思議です。

3) ソウジシ (オナモミの実) : 晩秋、河川敷の茂みなどで衣服につく「ヒツキムシ」のことです。

慢性鼻炎に伴うオデコのあたりの痛みに使います。鼻の通りを良くして副鼻腔炎からくる頭痛の症状を改善する漢方薬に配合されます。

4) ゴシュユ : ミカン科ゴシュユの実

胃が弱く、寒がりの人の慢性頭痛に使います。漢方では胃と頭痛との関係は深く、肝経というネットワークで繋がっています。ゴシュユは、この肝経を温める働きが強いので、冷えると肝経に沿って不調をきたす方に使用する漢方薬に配合されています。例えば、下腹部や陰部、目や頭頂部が痛む方、下痢をしたり胃から酸っぱいものが上がってくるなどの症状に使います。

5) ストレス性頭痛とお血頭痛 :

メンタルな疲れで気の巡りが悪くなると、血めぐりも悪くなる。そんな頭痛の特徴は、固定痛・刺痛で、夜・朝方に痛むことです。**ハマスゲ (香附子)** を使います。漢方薬としては、冠元顆粒や頂調顆粒に含まれています。

(虫の一分)

